

## 会 議 録

会 議 名 ( 付 属 機 関 等 名 )		平成28年度 第5回 川西市社会教育委員の会	
事 務 局 ( 担 当 課 )		教育推進部 まなび支援室 社会教育・文化財課 ( 内線 3421 )	
開 催 日 時		平成28年11月24日(木) 10時00分～12時00分	
開 催 場 所		川西市役所202会議室	
出 席 者	委 員	生田議長、安藤副議長、田中委員、米田委員、桜井委員、 細見委員、上西委員、伊藤委員、泉委員 計 9名	
	その他		
	事務局	柘川まなび支援室長、井上社会教育・文化財課長、大屋敷地域こ ども支援課長、瀧花中央公民館長、村山中央図書館長、西門生徒 指導支援課長、山中(社会教育・文化財課書記) 計7名	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0名
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会 議 次 第	1. 開会 2. まなび支援室長あいさつ 3. 前回の会議録の承認 4. 報告事項 (1)第58回全国社会教育研究大会(千葉大会)について (2)平成28年度兵庫県社会教育委員協議会研究大会について (3)阪神北地区社会教育委員協議会第3回理事会について (4)各協議会の会議報告 (5) その他 5. 議題 平成28年度年間研究テーマについて 「社会教育の再生～気楽に行ける公民館～」 6. その他		
会 議 結 果	別紙のとおり		

# 審 議 経 過

NO.1

議長	平成28年度第5回社会教育委員の会を開会します。本日の委員の出欠ですが秋山委員が欠席で、他の委員は、すべて出席です。開会にあたり、まなび支援室長からあいさつをお願いします。
まなび支援室長	(まなび支援室長あいさつ)
議長	それでは次の2前回会議録の承認について、事務局、説明をよろしくをお願いします。
事務局	(事務局説明)
議長	今の説明に質問はございませんか。特に質問がないようなので前回の会議録をご承認いただいたものいたします。次に3の報告事項に入ります。事務局、報告をお願いします。報告の後、参加された方より別途報告をお願いします。
事務局	<p>(1)第58回全国社会教育研究大会(千葉大会)について</p> <p>日時：平成28年10月27日～10月28日</p> <p>会場：千葉県文化会館</p> <p>・平成28年度研究主題</p> <p>「学び合い、支え合い、高め合う 社会教育の創造」</p> <p>1.記念講演</p> <p style="padding-left: 2em;">演題 社会に役立つ人づくり</p> <p style="padding-left: 2em;">講師 株式会社 オリエンタルランド 執行役員 人事本部長 金木 有一 氏</p> <p>2.シンポジウム</p> <p>テーマ 地域コミュニティ再生に向けて</p> <p style="padding-left: 2em;">～人づくり・まちづくりをどのようにしていくか～</p> <p>コーディネーター 明石要一氏(千葉敬愛短期大学学長・千葉大学名誉教授)</p> <p>シンポジスト 岸川 政之 氏(元三重県多気町役場 まちの宝創造特命監)</p> <p style="padding-left: 2em;">鈴木 敏恵 氏(シンクタンク未来教育ビジョン代表・一級建築士)</p> <p style="padding-left: 2em;">平岩 国泰 氏(放課後NPOアフタースクール代表理事)</p> <p>3.分科会</p> <p style="padding-left: 2em;">第1分科会テーマ 学校教育支援の推進</p> <p style="padding-left: 2em;">第2分科会テーマ 家庭教育支援の充実</p> <p style="padding-left: 2em;">第3分科会テーマ 地域の教育力の向上</p> <p style="padding-left: 2em;">第4分科会テーマ 社会教育委員の役割</p> <p style="padding-left: 2em;">第5分科会テーマ 災害に強い地域づくり</p> <p>(2)平成28年度兵庫県社会教育委員協議会研究大会について</p> <p>日時：平成28年11月14日</p> <p>会場：兵庫県民会館</p> <p>内容：午前：演題「社会教育の未来像～中間支援NPOの立場から～」</p> <p style="padding-left: 2em;">講師 古賀桃子氏(特定非営利活動法人ふくおかNPOセンター代表)</p>

# 審 議 経 過

NO.2

	<p>午後：分科会                  第1分科会「学校、家庭、地域の連携協力を進める事業の実施」(上郡町)                  第2分科会「地域における子育て支援も実施」(丹波市)                  第3分科会「歴史文化を活かした人づくりから地域づくりへ                  ~歴史文化遺産を地域の宝に~」(淡路市)</p> <p>(3)阪神北地区社会教育委員協議会第3回理事会                  日時：平成28年10月31日                  会場：三田市役所                  議題：平成28年度第2回研修会について                  開催日 平成29年2月で調整中                  講 師 JICA派遣講師を予定</p>
議長	<p>全国大会に参加いたしました。実践の部分で、学校現場と地域の人材の接点のところ                  で、学校の要求と地域住民との繋ぎ方について報告がありました。我孫子市では学校の職                  員室に地域のコーディネーターの机があり、そういう場を作って連携をやっているとい                  う話がありました。あと、文科省の審議官の方が、社会教育の今の位置づけについて、文                  科省の中ではその大切さはよく分かるのだが、試行錯誤されていて、社会教育主事の部                  分にしてもほとんどの地方自治体で片隅に置かれているような現状になっているという危                  機感を持った話がありました。次に平成28年度兵庫県社会教育委員協議会研究大会につ                  いて、米田委員お願いします。</p>
C委員	<p>研究大会の午前の講演では「社会教育の未来像～中間支援NPOの立場から～」とい                  うことで、特定非営利活動法人ふくおかNPOセンター古賀桃子さんの話がありました。こ                  の方は、地元に対しての思いが強くあり、小さい頃は公務員になり地域のためになにかし                  ていきたいということだったのですが、その後、神戸の震災があり、もっと色々なことが                  自分でできないかという思いが強くなり、最終的にボランティアやNPOで自分がもっと                  できることがたくさんあるのではということで、大学を卒業後、この組織を設立されまし                  た。「草の根から社会を描く」を合言葉にNPOに関する相談や研修、企業や行政向けの啓                  発・コーディネートなど多角的なアプローチを持ってNPOの活動基盤整備を図っている                  方です。どこの地域でも、やはり出会って、話して、課題やテーマを理解して共有してい                  く中で、共にできることを探っていく。常に身の丈にあった自分達の役割を意識しなが                  ら、何かできることを探っていこうということで、色々な活動をされています。午後から                  の分科会では地域における子育て支援の実施ということで、丹波市でTプラス・ファミリ                  ーサポートをやっている、地域への思いを強く持っておられるエネルギッシュな方の話で                  した。この方は、テレワークに興味持っておられて、自宅のPCで場所や時間を選ばな                  い、オフィスの外に持ってくるような仕事を女性にどんどん推進していったらいいのでは                  ないかということで丹波市のゆめタウンの2階に託児室のT・プラスというのを持ってお                  られる。この方も自分の生まれ育った丹波市に対しての思いがすごく強く、そういう強い                  思いが自分たちの地域を育てていくのかなと感じました。</p>
議長	<p>次に(4)各協議会の会議報告について、なにかありませんか。なければ議題に入りま</p>

# 審 議 経 過

NO. 3

D委員	<p>す。28年度の研究テーマ「社会教育の再生～気楽に行ける公民館～」について、議論を進めていきたいと思います。お手元に、1川西市の公民館に関する現状と課題、2公民館の今後について、3その他、という今までの委員の会での論議を事務局がまとめた資料です。あわせて行政の中で地域の情報やデータをまとめたものはないかというご意見等々もあり、事務局の方で資料2を用意していただきました。</p> <p>今回まとめていただいた論点整理の最後にある「そもそも市民は公民館を必要としているのか」という原理的なことを確認しないと上に乗るソフトの話が出てこないと思います。公民館や社会教育が学校教育の補完でとどまってはいけない。社会教育や公民館が地域の価値を新しくするような場になることを求められているというのが1点と、そういう意味でC委員がおっしゃっていた地域が大好きでエネルギーという人を、どのようにその価値に繋いで公民館づくりだけではなくて、サブテーマの気楽に行ける公民館に繋ぐ話ができることが1つ。もう1つは細かいところや調査で進めるのではなくて、その原理、原則をみんなが共有して1年目は行動ができるかどうか。慌てて多くの細かいことを考えるというよりも、それができるかどうかということです。その意味で阪神北地区社会教育委員協議会の研修会のJICAの話が心配になっていて、JICAというのはむしろ現代の学校教育的価値観に社会教育を包みこもうとしている立ち位置でがんばろうという方向が強いのでそれで講師として呼びたいのかなと思いつつ、川西はそれでいくのですかということです。そういう意味合いで資料につけていただいているODAの「住民参加による教育開発プロジェクト」が少しどうかと思うのですが、もう少し教えていただけたらと思います。</p>
議長	<p>これは阪神北地区社会教育委員協議会の理事会で配布された資料です。今年三田市が当番市ですので、三田市の事務局がJICA関係の方を講師に呼んで話を聞こうということだけで特にこれという説明は受けていません。</p>
D委員	<p>そこを整理しておかないと何年たっても同じことが繰り返されるので、社会教育をもし機能させようと思うのであれば知恵を使った方がいいと思います。ODAについての説明はなかったですか。</p>
議長	<p>説明はなかったです。多分、インターネットから取り出された資料だと思います。</p>
D委員	<p>多分あまり深く考えられてはいないと思います。この10月にOECDのパリ本部に行って話をしてきたのですが、世界銀行とか、ユネスコとか、OECDがITを使いながら貧困地域や全ての国を教育に取りまとめていくという世界戦略が著しいのです。そこの関わりで社会教育もものすごい勢いで進んでいる。2年前に参加した時と雲泥の差のスピードでしたので、それを知っていただいた上で、川西ではそういう公民館や社会教育の価値観をされるのかなと思いました。私はそうではない方が良く思うのです。高齢者も健康でがんばれる人をつくっていきましょうというのが世界的な傾向で、同様に子どもも学力があり体育ができる、さらに言えば価値観と態度を世界学力テストではかかっていこうというのが、公に出ているのです。しっかり社会に貢献する子どもを作っていこうという方向なのですが、そんなことをしたら、ゆっくりしている高齢者や子ども達がはじかれるのではと</p>

# 審 議 経 過

NO. 4

議長	<p>いうことをとても危惧しています。そこが良かれと思ってみなさん、講師に招かれたりするのですが川西はそのへんは考えられたほうがいいのではと思います。先週、富田林の公民館に講演と方向性の相談で行ったのですが、富田林はそれはいやだと思っておられ、若者の青少年委員会を立ち上げられて1年間でゆるやかな公民館活動を作っていけます。</p> <p>D委員からODAの本質的な流れの危険性というか、問題意識的な指摘がありました。私自身がそこまで読み切っていない部分の情報をいただいたということと、川西の研究テーマに沿っていった時にそもそも公民館の位置づけの部分をはっきり確認しないことには前に進まないのではないかという話がありましたが、ほか意見を言っていたらと思います。</p>
C委員	<p>私もそういうところまで考えているわけではないのですが、色々な部分でできる人が集まると魅力的な部分もある反面、全てにおいてそういう方でやってしまうと、「ゆとり」というか、ゆっくりしたものがなくなるというのはすごく感じます。そもそも公民館は市民が必要としているのかという部分で、形態が自治会館や公民館というだけで、習い事など自分達が使う部分だけの利用が多いことから、それならば別にどこの場所でもいいのではないかということだったと思います。公民館に気楽に行ける部分としては、今、私のまちではまちカフェみたいなことを始めだして、将来的には深山池公園を活動場所にしたという考えがあるのですが、深山池公園には設備的な問題等が色々あるので、今、屋台を作ってやりかけています。最近、雨天の時に公民館の前で実施することがありました。そのような時、お昼にランチを持ち寄って何か軽い気持ちでできないかを考えているのですが、まだそういうところの部分まではいいていないです。</p>
D委員	<p>そういうところの部分まで行かない方が良くと思います。気楽にいける公民館という究極のターゲットは気楽に行けない人がターゲットだと思うのです。だから行ける人がそうやって楽しいところを作りながら、来にくい人達が来てくれたら公民館活動がすごく生きてくる。そういうところを共有されたら良いと思うのです。</p>
I委員	<p>D委員が言われた部分でいうと、1つは必要性和現実との閉塞状態をどう打破するかということ文科省自身が策を持ち得ていない。その中で例えばODAであったりとか、様々なところが進めようとする教育活動の学校教育以外の部分で何か活路がないのかという動きがあるのは事実だと思います。それが良いとか悪いとかではなくて、そこまでの閉塞状態になっているというのが社会教育を取り巻く環境があるということ。もう1つ、そういう動きが出てきたときに機を敏にしてそこに乗っかるほどの余裕が川西市の社会教育課にあるかというとな。つまり現状を維持するのが精一杯であるというのが私の感想です。だからD委員が危惧されているようにそちらにシフトして動くということは消極的な意味でできないだろうという気はします。例えば秋田県の小学生の学力が高いのが秋田というまちにプラスに動いているのかということはどうしても考えてしまうのです。47都道府県で1番自殺率が高いのが秋田県です。出生率が低いのも秋田県で死亡率が高いのも秋田県です。つまり小学生の学力が高いということが本当にそのまちを育てていく基盤として活着しているのかということ、学校教育はもう1度考えないといけないと非常に強く思っています。市内の中学校で駆け出しの教師をやっている時に東井義雄先生に来ていた</p>

だき、話を聞いたのですが、その時に印象的だったことは「村を育てる教育」という本の中にも書かれているのですが、結局のところ村を捨てる学力を我々は育てているのではないのか。その当時、20年代後半から30年代はじめにかけての但馬の因習と封建的の制度の中で子ども達が村を見限って都会へ出て行って2度と帰ってこない。その時、東井先生は但馬に残れとか、帰って来いではなくて、それぞれの子ども達が大人になって住み着いた場所でその町を育てるために自分は何ができて、何をしようとするのか、あるいは自分が生まれてきたことを肯定的に捉えることができる人間として生きていけるのかという、そういう学力を育てるのが、公教育ではないのかという提案があり、実は社会教育も同じような部分があると思うのです。D委員が言われたようないわゆるトップダウンで降りてくる教育のあり方というのを否定するところからスタートしたのが戦後の社会教育で、その部分は守っていくべきであるとは思いますが。私は社会教育委員の会で議論されてきた内容の本質部分というのは気楽にいける公民館の発想を下支えする課題と提案があるなと改めて思っています。例えば不登校の子ども達への支援ができないのか、あるいはリタイアした人達の活用というのがないのか、あるいは自由に使える空間がもっとあっても良いのではないのか、公民館自体が登録団体の活動と講座でいっぱいになっていないか。あるいは就学後の母親向けの講座が圧倒的に少ないのではないのか、PTAもイコール社会教育で活動をしているが、公民館での活動が少ないのではないのか、やりたい人だけがやっている公民館活動になっていないか、地縁がだんだんと薄まっていく中で公民館のあり方が本来の公民館と離れていっているのではないのかということもありました。それから地域の人を応援する講座というものがもっとあっても良いのではないのか。これからは3世代ではなく4世代を高齢化の中で考えていくべきではないのかとか。またターゲットをどこに絞るのか。全体をターゲットにするのか、あるいは弱いところに特化して努力目標としてのターゲットを設定する方が良いのかとか。それから4時以降は利用者が少なく、閉館までの空いた空間をうまく活用できないのか、公民館運営審議会がなくなり、それに代わるようなものがあっても良いのではないのか、PRが少ないのではないかなど、多くのことが出ているのですが、ここには公民館が抱えている課題を整理をしていく上で非常に重要な提案が出ているのではないのかなと思いました。それともう一つ、D委員やC委員が言われていた中にもあったのですが、川西の公民館をどこへ持っていくのかというのを、行政サイドが位置づける必要があるのかなと思います。つまり自由な空間提供が公民館に求められているのであれば、公民館という看板を下ろして、コミュニティセンターにして、自由に使えるあるいは市民の発議によって自分達でやりたいことをやる、そういう空間提供の施設であればいいだろうと思います。そうではなくて学習機会の提供というところで市民の学習活動の支援という部分が必要だということであれば公民館は必要だろうし、気軽に集える公民館を作ろうと思うと、どちらかに特化するのではなくて、どういう比率でバランスをとるのかというのが館長やあるいは所管する行政サイドの知恵の出どころかなと思いました。出した話の積み重ねですが、整理をして体系化すると決して間違ったところへは行っていないという気がしています。ここからは私の意見なのですが、気楽に立ち寄れるということの究極は何かというと「集う」ということなのです。多くの市民が気軽に集える場であってほしいということはC委員が先ほどいわれた様に北陵で今、カフェという動きを屋外で行なわれているのですが、それは公民館であっても良いだろうし、その前例はたくさんあります。例えば100円カフェなどを色々な公民館でやっておられる。しかし、公民館でお金を取っていいのかと行政が言いはじめるとそういう発想へは向いて行かないわけ

	<p>で、もっと柔軟なものがあったらいいと思います。お昼に登録団体のコーラスの人や大正琴をやっている人達のコンサートがあり、参加費100円でコーヒーを飲みながら聞くなど「集う」仕掛けというのはいくらでも出来ると思うのです。問題なのはその集いの対象者がどうなのかというところで、いわゆる高齢者が中心の今の公民館の利用状況からすると、壮年、子育て世代、若者などの利用が少ないということになる。その人たちを呼び込む仕掛けというものが当然いるわけです。以前、中央公民館長の話の中で、行政センターの仕事が負担になってきていてなかなか難しいというところで、それなら人を予算を付けてほしいというのは今の川西では絶対無理で、そんな中、公民館職員にアイデアを出せということの方が難しい。それならば企画の部分をもっと市民に預けていく体制が必要なのかなと思います。その中で公民館の本来の役割である、「結ぶ」「活かす」「学ぶ」という3つの要素をどのように企画していくのか、またその企画の中には市民の参加をうながす仕組みがあっても良いのかなと思います。例えば、尼崎市が去年から始めた「みんなのサマーセミナー」というのがあります。夏休みに旧大学施設等を開放し、そこでどんなセミナーをしたいか応募するのです。講師もその人達がし、その一覧表が出たところで市民はそれを見ながら自分の受けたい講座を受けるといふ夏休みのイベントとして尼崎はやっているのですが、川西は公民館主催の講座を少し減らし、月に1、2回のペースでそういうものがあったらいいのかなという気がしていました。例えばコーラスの登録団体の方による合唱の指導者研修でも良いだろうし、あるいは銀行などを退職された方々による、年金と金融資産の運用の仕方講座みたいなものもできるだろうという気がします。もう1つは一昨年の阪神北地区社会教育委員協議会の研修会で講師をしたのですが、町が劣化すると必ず弱者が生まれて、その弱者がどこへ行くのかというと、高齢者と子どもに必ず行くわけです。そういう人達を支援するのを世間ではコミュニティビジネスと言いますが、私は支援ビジネス、応援ビジネスでも良いのかなと思っていますが、そこに困っている人達を地域で支えていくビジネスがあり、その中核に公民館や自治会などが関わっていくようなこともいいのかなと話をしましたが、そういった有償ボランティアをどう育てていくのが、これからの公民館の大きな役割になるという気がしています。それと、以前出ていたと思いますが、例えば夏休みに学習室を子どもたちに開放してやろうと思うと、登録団体の活動制限をしないといけないので難しい。あるいは常設の子育てのお母さん達の集いの場を設けるとなると満杯の部屋を空けていくのはなかなか難しい。このあたりのバランスをどういうふうにとっていくのかというところがないと、気楽に集える館にはならないのかなと考えます。</p>
議長	D委員どうでしょうか。問題提起をしていただきましたが。
D委員	<p>おおまかに流れは共有させていただいています。社会教育が動かないというのは、そうだろうなと思いつつ、先ほど申し上げたどちらの価値観でいくのかという社会教育の話というよりは、私たちの話で、私たちはどちらかという今の時代におもねるような価値観を持ってしまっているから、物事を考えていく時にさきほど、「町が劣化して社会的な弱者が作られる」それは社会的な弱者が作られるからまちも劣化していくのですが、そういうところに目を向けた組立てを作るといふ発想をあまり持っていないと思うのです。だからみんなが集えるという「みんな」は、社会的強者です。そのところを私達の中の問題として取っていないとだめであるというところでお話をさせていただいた。なんとなくや</p>

	<p>る、好きなことをやるというところに、強者の私達の眼差しがあることを伝えておきたかったことが1つです。それから秋田には4年続けて教職員団体に呼んでもらって行ってきましたが、200人引きこもっている村があったりして大変なことになっています。それに全国学力テストは、私学を合わせると10位までは東京首都圏です。公立学校で秋田と福井と言ってはいるけれど、実は全然違う論理の中で東京が1人勝ちしている。更に3つ目は豊中がやっている引きこもりの人達のカフェについて、外に出て来られなくなっている人達を政府のワーカーや行政の人達がサポートしつつ、ちょっと外に出られそうな人達に時給500円で来てもらうという関西では初めての取り組みで、尼崎のみんなのサマーセミナーと同じように人々が強者の論点でなくて、弱者の視点からその価値感を広げていっており、今、行き詰っているところに新しい風を吹き込ませるという意味合いで参考になるかと思います。</p>
<p>F 委員</p>	<p>原点を大事にするということが公民館には必要ではないのかなと思います。戦前戦中戦後、大変な時期に公民館が日本にはじめてでき、全国に公民館の歌までできた。その当時、地元、地域に、公民館を作って欲しいという願いをやっと叶えて、そこに行けば色々な催し物ができ、色々な人と話をしてコミュニケーションをとることができ、学ぶことができる。満足にそういうことができなかつた時代のことを考えていくと、川西に10の公民館があるということはすごいことなのです。東京などは公民館がどんどん減って、全国で1番少ない数になっています。便利な都市ですから、公民館に代わる場所がたくさんあるからだと思うのですが、川西はやはり、現状の公民館を維持し、その中で新しいことを企画したり、チャレンジをしたりして、新しい情報を提供していくことが大事ではないかなと思います。私、前々回、公民館に来てもらうためにはホームページを更新し、そこに行けば新しい情報や様々な資料や掲示物があり、地域の人々の作品が展示してあったり、歌声や笑い声が聞こえてくるとか色々なことがある。60才で定年退職をして10年間何もせずに家にいたけども、70才になり何かやってみようかなという人が川西には多い。そういうことを大事にして、色々な資料もありますからどんどん情報提供をしていく。コンビニに行ったら印鑑証明や住民票などが会話なしで取れる。それは便利ですが、公民館に行けば、「元気ですか。」「どうですか。」と一言、二言、会話を交わす場所があるということを大事にして欲しい。便利な中で大切なものをどんどん失ってしまっているのではないかなという感じがしています。お茶が飲めるスペースとか、子ども達がそこで自習しているとか、地域の人々がボランティアで教えにきたりとか、読み聞かせや人形劇をしたりとか、そういうところが公民館の魅力ではないかと思います。</p>
<p>E 委員</p>	<p>公民館の利用は、常連者が多いという意見が前から出ているのですが、そういった方に講師になっていただいてセミナーを開くということもこれからの公民館の活性化に役立つのではないかと思います。公民館には行政センターの部分もあり、それから居場所としての部分もあります。公民館には高齢者の方が多いのですが、なかなかそこに行けない若い方が気楽に来られるような居場所づくりが私は一番大事なかなと思っているのです。そのためには、公民館の中の活用ということを考えていくことによって気楽にいける公民館のテーマに沿っていけるのかなと思っています。</p>
<p>B 委員</p>	<p>先ほどI委員が言っておられた尼崎市の「みんなのサマーセミナー」では色々な方が講</p>

	<p>師をされているということでしたが、パレット川西でも市民講師というのを募集し、育成され、そこで実際に講師になられて講座を開いておられる方がたくさんおられます。ここで育った講師の方が公民館に繋がっていったらと思いました。D委員のお話で「強者」と言われたのがすごく衝撃的でした。私たちの子育て支援のイベントでも掘り起しと言っているのですが、ブレイルームにいつも来ている人達が資料を取って行き、その人たちがいつもイベントに来ていて、本当に必要な人にはなかなか届いていない。弱者という言い方をしたらいけないのですが、本当に手を差し伸べなければいけない人に届いていないと感じています。カフェという言葉が色々な所で出ていましたが、オンブズパーソンの会議で高校生のひきこもりというか、そういう方たちのために高校の部屋を借りて有償でカフェをされているという話がありました。教室ではしゃべれないけれど、そのカフェに来たらしゃべれる。そういう空間が本当に大事だと思っていました。何年か前に川西市郷土館をどうしたらアピールできるかということで、カフェやランチをすることができる場所があれば、口コミで広がるという話題が出たと思うのですが、役所の仕事ではお金を取るとか、食事の施設は無理なのではということで、繋がらなかったのですが、固いこと言わないで有償のボランティアとか、そういう場をもっと活用できたら良いのかと思いました。</p>
議長	<p>何年か前のこの会議の中で、川西市郷土館のことが議題になり、当時の館長にも来ていただき活性化について論議をしました。現在は公民館以上に開かれた形で色々なイベントを開催し10年前に比べて様子が変わり、認知度も非常に高くなっています。</p>
A委員	<p>今、NHKの朝の連続ドラマで「べっぴんさん」をやっていますが、郷土館がその登場人物が住んでいる家という設定ですと出てきています。ドラマや映画のロケ地になっているということでもっとアピールできたらいいと思うのですが、あそこは大型バスが入って行けないということもあり、すこし難しいところかなと思いつつ、何年か前から童謡を歌う会を毎月始めました。現在、郷土館は、東谷ズムなどの地域のイベントが色々と開催されすごく活性化しています。私は緑台公民館でコーラスやっていますが、行政センターに住民票を取りに来られた男性が、定年後、何かをしたいと思っていたところにその歌声が聞こえてきて入って来られたのですが、そんな感じで気楽に行った公民館、行政センターで、活動を気楽に覗けるようなそんな雰囲気がある公民館を作っていけたら良いなと思っています。あと、公民館に来ることができない人にも公民館に来てもらえる方法ということで、やはり公民館の中で楽しくみんなで色々それぞれが活動をしていたら、そこでまた入ってこられる方もいらっしゃるのではないかと思います。</p>
H委員	<p>「気楽に」とはどういうことだろうと、もう一度原点に戻るとしたら、公民館を使う人たちが身近なニーズを持って、それに応えていけるようなところにするということで、そういうニーズを誰が把握してどうコーディネートしていけばいいのかということを考えていくと、やはりそれは一番身近な地域の人達が、それを把握していくということです。そういうことを思えば地域の人材を有効に活用していくのが良いと思います。そのために、有償ボランティアの育成という事も出てきたのですが、そういう形で公民館の中で身近なニーズを把握しながら、有償ボランティアの方が地域の現状に合った活用をして行くのが良いのではないかと思います。その中でカフェのように集える様な場所を作ったりしてい</p>

# 審 議 経 過

NO. 9

議長	<p>くことで、地域ごとで公民館の様子は様々であるかも知れないけれども、そのニーズに応じていけるかもしれない。その中で「結ぶ」、「活かす」、「学ぶ」ということがやっていけたらと思います。</p> <p>会議録読んでみますと、行政主体ではなく地域住民が自分の地域をいったいどんな町にしたいのか、あるいはお互い共に生きるのに助け合っていける地域をいかに作っていくかという、そういう一つの拠点の場として、公民館であってもなくてもそれぞれの実態に合わせて動いていると思うのです。学び合える場面を作っていき、自分たちで公民館を運営していくのだという人材を育てていく動きに川西市はなっていないといけないと感じています。今日は生徒指導の部門の方に来ていただいているのですが、不登校など子ども達の問題の部分で学校サイドの方から思われるところがあると思いますがいかがですか。</p>
事務局	<p>今、不登校の子の中でセオリアに来ている子ども達が以前と比べてかなり多くはなっています。大分利用してもらえる様になったなと思う部分はあるのですが、一方で家から出られない子どもで、セオリアという場所が嫌だ、川西能勢口まで出るのが大変だということであれば、近くで居る場所があればというのが一つと、学校に居る子どもと不登校の子ども達と出会える場が、学校をやっていない時間にあるというのは一つの有効な方法かなと思います。学校の時間であれば学校に行っていない子は学校に行っている子に会いたくないというのが子ども達の中にあると思うのですが、学校に行かなくてもいい時間に地域の子も達と堂々と会えればというのが一つ見方としては考えられるかなと思います。</p>
C委員	<p>つい自分の地域のことはかりを思い浮かべてしまうのですが、例えば、場所といえば、私の地域では公民館の中にコミュニティ室があって自分達のやりたい会議は公民館に関係なく使えるという利点がある。まちカフェにしてもコミュニティ室の中でしたらどうかという話もあったのですが、中でやってもなかなか入りにくいので、それならまずは外でオープンにしてということをやりました。公民館の前は広い場所なので、歩いている人がこんなことをしているのかという感じでみんな見ているのです。通る人にそういうところから呼び掛けるなど、そんな小さなことからでも誰かを呼んでまたそれが大きく膨らんでという形になるのかなと思います。</p>
議長	<p>不登校の子たちの居場所として公民館やコミュニティ室がそういう形で活用できないかななどの考えは、行政サイドの方は持っていらっしゃいますか。</p>
事務局	<p>まだそこまでは考えていません。</p>
議長	<p>E委員の多田地区もコミュニティ室が公民館にあるのですか。</p>
E委員	<p>公民館は公民館で、コミュニティの管轄のものは別という形です。あと各公民館で入ったところのちょっとした広場のような場所をもう少し広げてもらって不登校の方が自由に出て来られ、友達が1人でも出来るという場所が必要なのです。公民館は公民館としての居場所が作れたらと思います。</p>

# 審 議 経 過

NO. 10

議長	<p>利用者が固定化されているという現状を踏まえて新しい人が利用しやすい環境を作っていく。そこを改革していかなければならないと思います。今回、資料で配布いただいている第5次川西市総合計画「地域別構想」なのですが、これを見たのは、私ははじめてですので、事務局よりどういう使われ方をしているのか説明をお願いします。</p>
事務局	<p>この元となる第5次川西市総合計画というのがあり、それを作っていく中で各地域の現状と課題というかたちでそれぞれの地域が確認しあっていくという部分で作られたものです。その中でこの資料にあるように小学校区ごとで、人口がどうなっており、地域の方々がどういうことを望んでおられるのか。また、そのことから地域がどういうことに取り組んでいったら良いのかと考えいく材料として使われます。</p>
議長	<p>I委員が市役所にいらっしゃった頃に作られたものですか。</p>
I委員	<p>ちょうどその時です。意識調査とかをやりながら、地域ごとの課題を整理しそれらを包括して市の施策をたてるというのが、川西市がこれまでにずっとやってきたやり方ですので、その中でやってこられたということであろうと思います。例えば市民の意識調査で社会教育、生涯学習関係についての意識を見ていくと、例えばグリーンハイツなどは、大変高いです。それに対して他の地域はそれほど高くないという様なそれぞれの地域の特性というのがあります。つまりグリーンハイツでは高齢化が非常に進んでいるというなかで、なおかつ学習意欲が高いということになってくると、その地域の公民館や北部に生涯学習施設等を作って行く時の1つの基点になって行くという様な次の施策へと繋がっていくということになると思うのです。私が一番ショックだったのは中学生に意識調査を取っているのですが、大人になって川西に住みたいですかという問いに北部はほとんど1ケタです。つまり中学生だから分るのです。なぜ住みたくないのかということとまわりに何もなくて不便であるということです。親世代は我が終のすみかを買って、ここに安住の地を求められて良かったということなのですが、そこに同居している子ども達は、例えば高校に行くにしても自転車で坂道を登らないといけなし、電車に乗って南に出ないといけなし。ということを見ると川西の北部から早く出ていきたいというのが若い子ども達の感覚で、それも1つの課題だと思うのです。ところが清和台は、自分に子どもが出来て家庭を持つと結構戻ってくるのです。清和台中学校の人数が、そんなに大きく変動しないというのは1つの大きなポイントなのです。このようにそれぞれの地域で特徴があるので、公民館が地域に密着した施設ということであるならば、その特徴を考えながら本当はやっていかなければならないでしょうが、それを考えながら館を運営していただだけのスタッフが無いというのは、本当に決定的なところだなと思います。そうするとやはり市民の手に委ねて行く部分というのを出来るだけ幅広く柔軟にもっていかなければ、ソフト面の充実というのは難しい。</p>
議長	<p>今までの会議録にも出ておりますが、地域の課題を明確にしていかななくてはならないというところで、地域の公民館をどのような公民館にしていきたいのか、地域住民の声をシビアに運営に反映させ、住民の力で作り上げていく公民館に改めていかないといけなしということは確認できたのではないかと思います。</p>

<p>D委員</p>	<p>地域から出てきたらなんでもOKというのではなく、地域のニーズの価値観が大事だと思うのです。例えば自警団が地域から出てきたら人々を取り締まるという方向に動く町がある。だから私たち社会教育委員の会はそうではないというところを提示する。</p>
<p>議長</p>	<p>F委員は教育現場や公民館におられ、現在は県立一庫公園にいらっしゃって、その辺り違った発想や角度で見えらっしゃると思うのですが、いかがですか。</p>
<p>F委員</p>	<p>公民館で2年間勤務した時は、コミュニティとの関係が非常に大切で、コミュニティの方とはほとんど毎日顔を合わせて会話をしていました。コミュニティの行事も公民館を使ってもらい、公民館の近くの公園のグラウンドで行事があったら公民館も一緒に参加する。その様な中で公民館はここにあったのかと初めて知る方もおられるのです。新しい講座やイベントをしても来る人は決まっているというのは何年もの課題なのですが、仲間や知り合いができて、こんな講座があるので一緒に行こうよと声をかけてくれる人が何人いるかということかと思えます。一庫公園でも色々なイベントをして、参加されている方に、どういう情報で来られたのかと聞いたら、川西広報が大変大きいです。だから川西広報に毎月、記事を出してくれたらいいのですが、公民館は毎月出るので、県立公園は今年も記事を多くカットされました。例えば1つの例ですが、一庫公園のコーナーがあれば、こんな魅力的な講座やイベントがあると知ってもらえます。また公園に来られた時、郷土館や公民館の講座のコーナーがあり、パンフレットが置いてあれば自由に持って行ける。あとは縦と横の連携と縦軸、横軸の連携がもっと上手くいけばいいのですが、あまり欲張らないで、少しずつ成果を出していくことが大事かなと思います。</p>
<p>D委員</p>	<p>やはり居場所といえば関係です。それがどういうふうにも共有できるかと提案できる委員の会ですから大事かなという話をしています。「地域別構想」の先ほどI委員が言っておられた地域の中学生の意識調査を見ていたら、ある地域の中学生はその地域に住み続けたくないというのが4割なのです。中学生の4割が地域を拒否しているというのは危機的です。地域のありたい姿というところを見ていたら子どもを叱ってくれるようなソフトやハード面を充実させると書いてあって、これでは子どもは地域に住みたくないよなってしまうのです。ここで言われている「地域の人」には子どもは入っていないですね。子どもを指導するという地域の人の方が勝っているのを見て取れるのです。その辺のことから、例えば公民館が先ほどの強者の公民館であったら、そこへ行きたくない子どもをさらに作ってしまう様な価値観になってしまうので、そうではない川西の方がいいのではないのでしょうか。</p>
<p>A委員</p>	<p>これは文章の中で書かれて、数字がグラフになっているから、そう受け取れます。ここは高齢化が進んでいる地域で、高齢の方が色々な役についておられるのでその声が大きくなっていますが、子ども達ものびのびしていますし、実際にはそんな感じではないと思います。</p>
<p>D委員</p>	<p>ざっくりしたデータだからそういう読み違いが出て来ます。印象で地域をラベリングするのではなくて、例えば、30代40代の引きこもりが今、増えているのですが、そうい</p>

# 審 議 経 過

NO. 12

	<p>う人が何人、地域に居るのかを把握ができれば、そのことは大事であるということ共有できる。そのための価値観は、厳しくしていく価値観ではなくて、自分の地域をより豊かにみんながいき合える価値観をここで確認しておくことが原理として大事ではないかなと思います。それが気楽をお互いに分かち合う。自分が気楽という訳ではなく、今、気楽でない人が気楽になるということです。</p>
議長	<p>例えば、引きこもりであったり、不登校であったり、障がいを持たれた方であったり、地域によって活動や認識の度合にかなり差があるなという感じを私自身受けています。それでは、次回の2月の段階では、集めて頂いた資料と今までの会議録をもとにこの1年間の論議の部分をまとめていきたいと思っています。それともう1点、例年、川西市の教育委員さんと我々、社会教育委員と年1回ですが、意見交流の場をもっています。本年も行いたいということで、教育委員会に申し入れをしようと思いますが、みなさん方からご意見はありませんか。</p>
I委員	<p>ないよりは、あった方がいいと思います。</p>
議長	<p>それでは開催ということで、日程などについては事務局と相談して、後日連絡をするという形にしたいと思います。時間になりましたので事務局の方からなにかありましたらお願いします。</p>
事務局	<p>例年、1月の定例教育委員会後に教育委員と社会教育委員さんとの懇談会を開催しています。教育委員会後に協議会などが入り実施出来ない場合がありますので、調整させて頂いてご連絡させていただきます。次回の社会教育委員の会ですが2月23日、木曜日午前10時、202会議室で予定しております。例年ですと、その時に教育委員会に出して頂く報告の素案が出ており、それを皆さんで見え頂き、最終の意見を交換して調整をしていくかたちになるのですが、会としてまとめてひとつの報告とするのか、各委員さんからレポートを出していただきそれをまとめさせて頂くというかたちにするのか、どのようにさせて頂いていただいたらよろしいでしょうか。</p>
議長	<p>各委員さんは独任制の立場ですので、1年間出席して頂いた中で自分の考えを一枚もののレポートにして提出していただく方法を取ったり、昨年度は委員の会としてひとつにまとめたものを教育委員会に提出する形を取りましたが、今年はどうでしょうか。私はまとめたものが良いのではないかなと思うのですが。</p>
D委員	<p>読みやすい方が良いですね。I委員が会議録の中のポイントをおっしゃっていたのですが、論点を整理し短くまとめて頂いた方が相手に親切でないかなと思います。</p>
議長	<p>それでは、委員の会としてまとめたものを教育委員会に提出していく方向にしたいと思います。これで第5回社会教育員の会を閉会します。</p>